

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—ピンとこないかもしれませんが—

NO. 4



あんずの送迎用の大きな車を運転するために、少しの間、教習所に通いました。教官を隣りに乗せたあの緊張感が何十年ぶりに戻ってきました。教習車は大きなトラックでした。車は大きいし長いし、すぐには車両感覚がつかめなくて、ハンドルを切るタイミングに迷いましたが、繰り返すうちに“こんな感じ”に慣れてきました。ちょっと世界が広がった気持ちです。あんずの車は教習車より少し小さいので、とても乗りやすく感じています。安全運転がんばります！

あんずでの小さい子ども達の活動に、ほぼ毎日取り入れているものがあります。タオルケットでの揺らしっこや紙吹雪遊び、小豆遊び、新聞紙遊びにスライム、小麦粉粘土遊び…、これらをまとめて“感覚遊び”と呼びます。何でこういう活動を、繰り返し取り入れているのか？。そのからくりをちょっと説明しますね。(教習所と何の関係があるかって？それはのちほど…)

育ちを促すたくさんのポイントがあるのですが、今回は2つ紹介します。

①自分の外側のモノと上手に付き合っていくために必要な試行錯誤の機会です。

風船遊びや粘土遊びなどは、「このくらい力を入れるとこうなるんだ」「こうするとつぶれちゃうんだ」「じゃあ、こうしてみたらどうなるの？」「なるほど、こうなるのね」といった、“これと付き合うにはこのくらいの力が必要”を知る実験現場ですね。子ども達が繰り返し、飽きるまで同じことを何度もするのは、そんな試行錯誤です。「最近、同じことばかり飽きずに繰り返しやっていて参っちゃう」なんてエピソードが増えてきたら、それは育ちのエネルギーだと思ってください。BOXティッシュを全部引き出しちゃったり、小さな穴に何やら詰め込んでみたり、壁一面に何かを塗りたいとしたり、といった“いたずら”も、育っていくために必要なチャレンジなんです。でも、家じゃ…。ですよね。なので“いたずら”ではなく、正々堂々と遊びとして、あんずで思いきり経験していきましょう。

②いろいろな刺激を交通整理していくための練習です。

例えば、小豆遊びのひと場面。たくさん触ると冷たくて、一粒はコロコロしていて、コップに入れるとザ～って音がして、床に落とすとパチパチはねて、それがあっちでもこっちでも。その中で「ボクは、このお茶碗の中にこぼれないように入れるんだ」と熱中している子は、隣りの子がまき散らしていても、気にせず入れ物に集中しています。余計な刺激をそこそこ無視して自分のテーマに熱中する力を磨いている場面です。ガチャガチャ遊んでいても、「そこにコップあるよ」と教えてくれた先生のアクションをしっかりキャッチできていたとしたら、いろいろな刺激の中からひとつの声かけを選び出せたことになります。にぎやかな駅のホームで人と話をするようなあの感覚です。ザワザワした中でも注目すべきこと(刺激)を選び出せる力は、たくさんの人の中で生活していくためには大切な武器ですね。

ダメだしされずに「やっているうちにわかってきた」「これ簡単になってきた」と経験できることが吸収力アップの近道だと思います。やってもらって、やってみて、OKをもらいながら教わりました。やさしい教官でした。おかげさまで身に付きました。(H28. 9) K

